

一般質問

岡野 孝 則

(民主クラブ)

コミュニティ活動の拡充は

問 従前は転入転居時に各町内会への移動報告が可であり、転入者等の情報は容易に入手できた。しかし、個人情報保護法施行後は本人の届出以外情報入手は困難。転入者との交流を促進するための方策、見解は。

答 現在、市窓口で町内会活動への参加を促すチラシの配付、町内会と連携したごみの出し方説明など様々な対応をしている。今後、転入転居者自ら町内会長宅を訪問出来るよう、窓口での案内に工夫したい。

問 高齢化社会で一人暮らし世帯が増える中、地域福祉として町内会と民生委員との連携がなお一層重要と思うが。

答 民生委員の取組みとして、住民助け合いマップづくりが進められている。日常の見守りから災害時の避難支援まで、一体的な地域福祉の支援体制が求められ、町内会と民生委員の連携

がますます重要である。



キャリア教育体験風景

キャリア教育推進経過は

問 本教育での成果と課題は。

答 生徒が目的意識を明確化。働く意義を理解。事業所側からの課題として、一部に基本的な挨拶や接客対応ができないこと、正しい日本語が話せない、漢字が読めないなどの報告がある。

学校支援地域本部事業

問 本事業のねらいと活動内容今後の方向性は。

答 地域全体で学校を支援、平成20年度から推進。内容は授業の補助等156事例でボランティア登録数は248名。今後、学社融合事業と一本化を検討。

岡本 俊

(市民連合)

自治基本条例制定は

問 地域が主体的に政策決定を行う地域主権型時代では自治の憲法とも言われる自治基本条例の制定は必要と思うが見解は。

答 自治基本条例は住民自治に基づく自治体の基本原則を定める最上位の規範となる条例であることから、協働による市民活動の実践をさらに積み上げ、ルール条例を基本とし、今後、検討していく。

安全・安心農業は



GAP研修会風景

問 環境保全の理念を取り入れた富良野版適正農業規範を作成し、安全・安心・自然環境に配慮した農業を目指すべきでは。

答 国際的にも通用するJGAP(日本適正農業規範)の認証取得を支援し、作物に合った任意のGAPについて、関係機関と連携し取り組んでいる。今後適正規範については必要性や内容について研究を進めていく。

農業担い手対策は

問 将来の富良野農業のため、中堅若手担い手に支援強化を行い、農地流動化に対応できる経営基盤強化を図るべきでは。

答 担い手の体系化を図り、課題・対策などを整理し優先度や重点化について検討したい。

農業経営の第三者継承は

問 所信表明で第三者継承について述べているが、現状の課題と方向性について伺う。

答 課題は譲渡者、継承者両者の信頼関係構築、資産評価・譲渡方法、支援の内容等。希望者の意向把握に努め、富良野方式の第三者継承に取り組みたい。